

2026年度

総合文化研究科修士課程第1次(筆記)試験入学試験問題

専門科目

(13:30 ~ 16:30)

国際社会科学専攻(国際関係論分野)

| 氏名 | 受験番号 |
|----|------|
|    |      |

試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。開始の合図があるまで、下記の注意事項をよく読んでください。

【注意事項】

1. 本冊子に落丁、乱丁、印刷不鮮明な箇所等があった場合には、手を挙げて申し出ること。
2. 本冊子の表紙に氏名及び受験番号を、解答用紙の上欄に受験科目名(「専門科目」と記入)、問題別番号、氏名、受験番号を忘れずに記入すること。
3. 解答問数と同じ枚数の解答用紙を配付するので、問題ごとに解答用紙1枚を使用すること。  
過不足があった場合には、手を挙げて申し出ること。解答用紙の追加配付は認めない。
4. 解答には必ず黒色の鉛筆又はシャープペンシルを使用すること。
5. 問題解答に関係のない特殊符号、その他これに類似の記号及び符号を記入した答案は無効とする。
6. 氏名及び受験番号を解答用紙の所定の欄以外に記入しないこと。
7. 試験場内で配付された解答用紙及び本冊子等は、持ち帰ることを禁ずる。

草 稿 用 紙 (切り離してはならない)

次の(a)～(i)の 9 問のうち 2 問を選択し、それぞれ解答用紙 1 枚以内に答えなさい。なお、以下の点に注意すること。

① 解答用紙は 2 枚配布します。1 問につき 1 枚の解答用紙を用いて下さい。

② 解答にあたっては、まず、解答用紙表面の 1 行目の左端に選択した問題記号（(a)～(i)）を明記し、2 行目から解答を書いて下さい。

③ 解答にあたって用いる言語は、日本語を原則としますが、英語でも構いません。

(a) 現在最も関心を有しているテーマについて、その研究史、自分の研究方法、構想、結論を述べなさい（テーマは卒業論文や演習レポートなどでとりあげたものでも構いませんが、それに限定されるものではありません）。なお、1 行目に、その内容を的確に示す題名を記しなさい。

(b) 「ある地域で、いくつもの国がお互いに牽制しながら並び立ち、一国支配を防ぎつつ、秩序を維持する」ことを勢力均衡と定義するならば、1815 年以前のヨーロッパでは、勢力均衡がありながらも長期・広域に及ぶ戦争が頻発した一方で、1815 年以後は勢力均衡を通じて「協調」「平和」の時代を迎えることが出来たとされる。なぜ 1815 年前後で、正反対とも言える結果が生じたのか。その要因を述べなさい。

(c) 近年、民主主義国では、大統領や首相など執政長官に、女性が選出される現象が注目されている。実際の国を事例に挙げながら、女性の執政長官選出の比較政治的意義を論じなさい。

(d) 「国家間交渉における個々の国家のバーゲニング・パワーは、その国の相対的国力によって規定される」という主張の妥当性について、具体的な事例に言及しつつ、あなたの考えを述べなさい。

(e) 渉外的法律関係を安定させるためには、実質法を統一する方法と、法域ごとに実質法が異なることを前提としつつ国際私法を統一する方法とが考えられるが、いずれも、現実的な方法とはいいいにくい。より現実的な、渉外的法律関係を安定させる方法について、契約法の分野における複数の具体例に触れつつ、利害得失を論じなさい。

(f) 近年、国際司法裁判所（ICJ）の争訟手続、仮保全措置手続、勧告的意見手続が活発に用いられる一方で、これらの手続の機能に変化が生じてきているとも言われる。それぞれの手続について、どのような機能の変化が見られるかを例を挙げながら説明し、その意義についてあなたの見解を述べなさい。

(g) 昨今、米国を中心に、大国と分類される国による高関税の導入事例が見られる。小国と大国の経済学的前提の相違に触れつつ、大国が輸入関税を課した場合に、その大国の生産量・価格・輸入量がどのように変化し得るか論じなさい。

(h) 環境規制が経済発展に与える影響を検討する際、反実仮想の設定が政策の短期的な費用と、技術革新・健康・人的資本向上など長期的な便益のどちらを重視するかによって結論は異なりうる。この点を制度的背景や産業特性の違いと関連づけて論じなさい。

(i) 企業がその利害関係者に対して市場以外の場を通じて働きかけることを非市場戦略（non market strategy）と呼ぶが、この非市場戦略について具体的な例を挙げた上で、そのような戦略が企業の市場戦略とどのように関係するかを論じなさい。